

WAIC 2026 報告：中国AIの「実行」フェーズ突入と日本企業の生存戦略

WAIC 2026で示された中国AIの急速な進化を整理し、日本企業が取るべき「信頼性」を軸とした勝ち筋を提示する。

WAIC 2026が示した「中国AI」3つの転換点

過去最大級の規模：出展1,100社超・世界初公開300点



初公開件数は3倍以上となり、社会実装への圧倒的な熱量を示しています。

主役は「チャット」から「実行（エージェント・物理AI）」へ



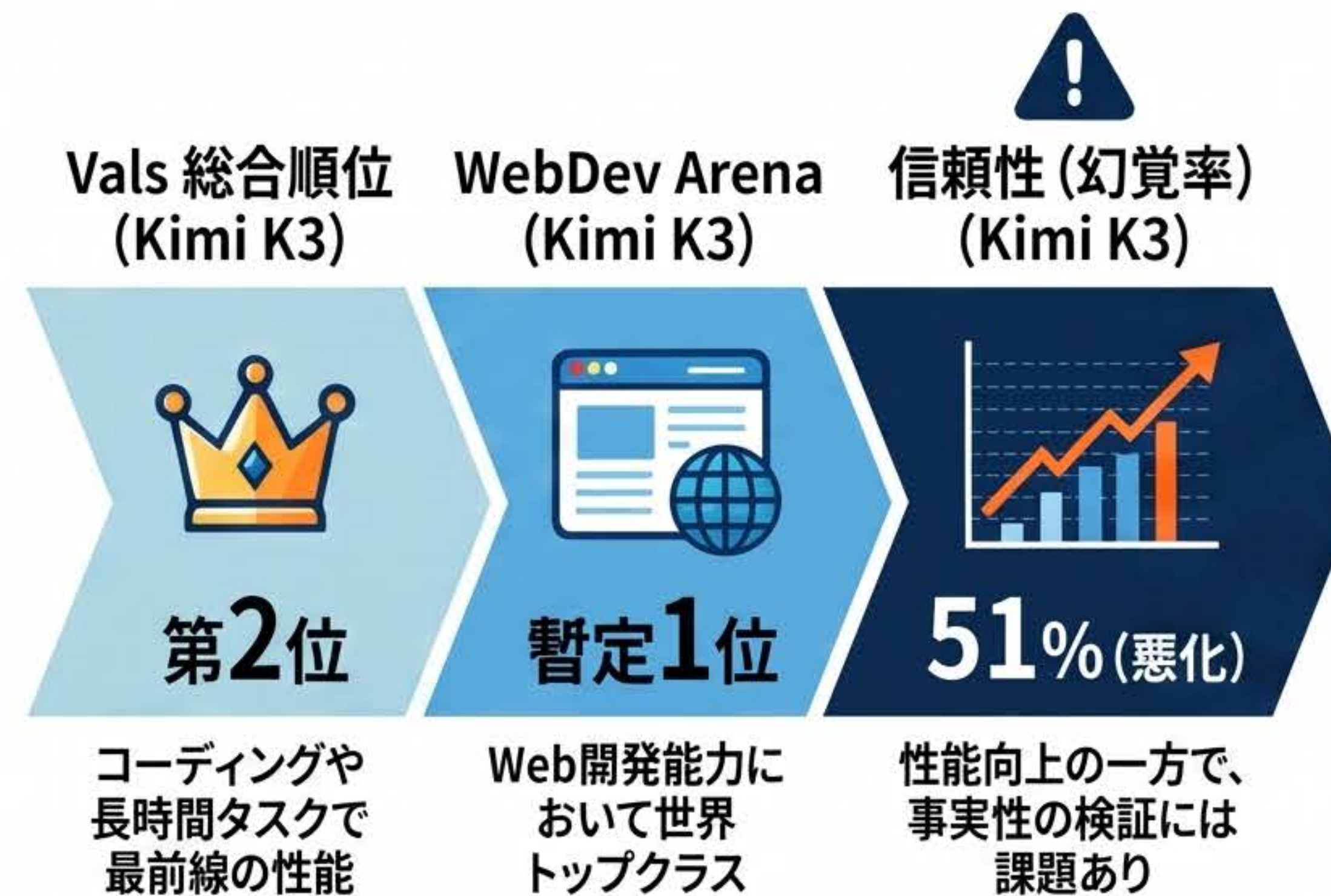
効率基準がモデルの規模から、仕事を完遂できるか、現場（ロボット等）で安全に動くかへ移行しました。

中国主導の国際ルール形成「WAICO」の発足



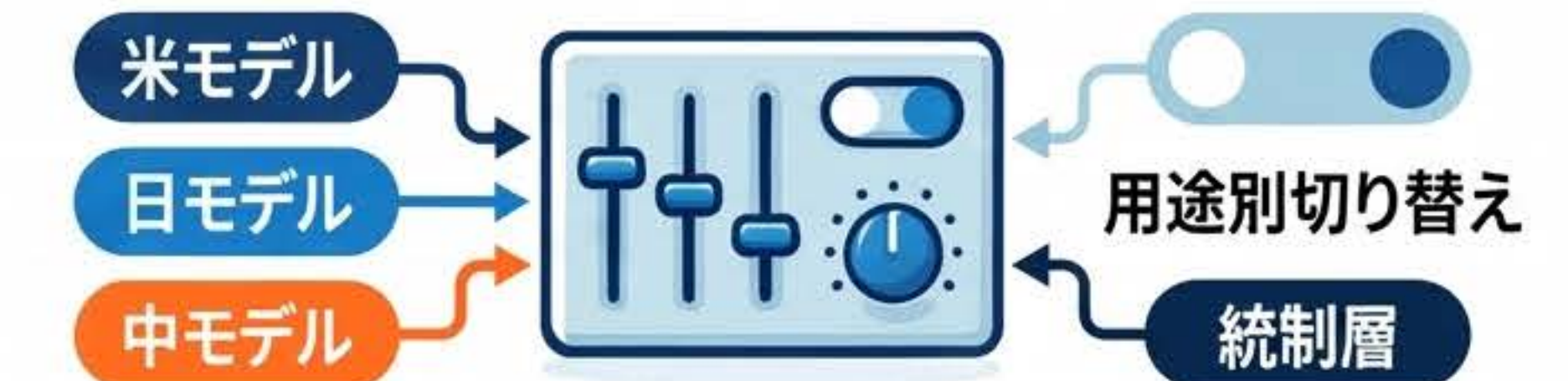
上海に本部を置く29カ国署名の国際組織が設立され、グローバルサウスを軸とした新秩序形成が始まっています。

中国製基盤モデル（Kimi K3）の現状



日本企業の勝ち筋：「信頼性の実装層」の確立

モデルに依存しない「AIコントロールプレーン」の構築



米・日・中のモデルを用途別に切り替え可能な「統制層」を自社資産として保有すべきです。

強みである「信頼性・安全・品質」を商品化する



日本の精密機械や保守力、機能安全のノウハウを、どのAIモデルにも競る「共通レイヤー」として定義します。

100日間のアクション：機密度別の利用境界策定



データの機密度を3段階（赤・黄・緑）に分け、中国系APIの利用可否を直ちに定義する必要があります。